

Y02b

国立天文台「科学映像クリエイター養成コース」の取り組み

縣秀彦, 内藤誠一郎, 三上真世, 並河正人, 林満, 平井明, 立石直子ほか(国立天文台天文情報センター科学文化形成ユニット一同)

国立天文台は、三鷹市と連携して、平成19年度より文部科学省科学技術振興調整費<地域再生人材創出拠点形成>に採択され、「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット」を実施してきた。本事業は、国立天文台が所有する4次元デジタル宇宙映像や、すばる望遠鏡の画像等の研究資源を他研究分野や映像文化において、次世代映像として活用する人材の養成を目的としている。本事業の中核の一つである「科学映像クリエイター養成コース」は、国立天文台が取り組んでいる4次元デジタル宇宙プロジェクト(4D2U)をベースに、次世代の科学映像コンテンツを制作できる人材を育成することを目的とし、平成20年より実施している。受講生は、年12回程度の講義、実習を通して、科学シミュレーションや観測結果の可視化技術、正しい科学的考察に基づいた映像を制作するための手法などを学ぶ。この4年間で26名のクリエイターを養成してきた。今年度終了時点での養成人数目標は36名である。これまでの修了生の中には、プラネタリウム向け映像クリエイターや、脚本・演出家の他、研究者として自らの研究成果を可視化しアピール出来る人材などがおり、この人材育成プログラムの成果が現れてきている。今発表では、科学映像クリエイター養成コースの取り組みと、これまで4年間の人材育成の成果、修了制作作品の紹介、今後の展開に関して発表する。なお、修了制作作品は科学文化形成ユニットのWEBページから視聴出来る。参考URL：<http://prc.nao.ac.jp/ashub/>